

特集

峨山がさんぜんじ禅師ものがたり②



十六歳の峨山さまは仏の道を究めたいと 能登からひとり比叡山へ上られました

さらなる仏道修行の
高みを目指して

十一歳で近くの天台宗寺院にお母さまと入られた峨山さまは、一生懸命に仏道修行に励んでこられました。十六歳になった一二九一年には、さらなる修行の高みを求めて天台宗の総本山である比叡山に上ることを決心されました。

がえます。
ひとりきりで京都に旅立つ峨山さま、それを見送られるお母さま。お二人の胸中はいかばかりであったことでしょう。

親の権威をひけらかす 貴族の子弟たち

比叡山に上られた峨山さまは、講師の円宗のもとで天台宗の仏法や学問を学び、厳しい修行を積み重ねられました。

No. 78
2026 Summer

山さん松しょう舎がん
寺ざん南なん臨りん

当時の比叡山には、峨山さまのように強い熱意をもって仏の道を学ぶ者も少なからずいました。

しかし、その一方で、貴族の子弟が親の権威を笠に着て、権力欲に走る者や、それにくみする者も数多くいました。そこには、出家した意義を見失い、仏道を究めることを自ら捨て去った悲しい姿がありました。

峨山さまはそうした連中に心を乱されることなく、天台宗の厳しい戒律や坐禅、唱題と呼ばれる念仏などに懸命に取り組まれていました。

全山を巻き込む 大争乱が巻き起こった

峨山さまが比叡山に上られて六年が過ぎた一二九七年のことでした。とうとう比叡の全山を巻き込んだ僧侶同士の争いが起こったのです。しか

も、争いが起こらぬよう調停するべき座主までも、調停するどころか一方に味方して争いの渦中に巻き込まれてしまいました。
その年の冬のことでした。峨山さまは争いを避けるため山から京の町に下りておられました。たまたま瑩山禅師が京都にいられていることを知った峨山さま。瑩山禅師に面会して問答を交わすこととなりますが、その話は次回といたしましょう。



比叡山延暦寺

八月はお盆、 九月はお彼岸です



お盆の行持は八月十日から

臨南寺のお盆行持は、八月十日、十一日のお墓経から始まります。

十二日は、午後六時から本堂前の広場で「弁財天万灯会」が行われます。

灯籠に願い事を書いて、弁天様に献灯いたしましょう。ご先祖様や亡き人たちへの供養にもなります。

十六日には、孟蘭盆会施食会の法要があります。亡き人やご先祖様など、各家にゆかりの精霊をご回向させていただきますのでお参りください。

九月はお彼岸です

九月二十日が彼岸の入りで、この頃にお墓経を予定しています。二十三日が彼岸の中日で、二十六日が結願です。

二十六日には、彼岸会施食会の法要を修行します。お彼岸はご先祖様に感謝



8月16日、9月26日にはご家族そろってお参りください

謝をささげるとともに、ご自分の生き方を見つめ直す大切な期間です。彼岸に足を運んでご先祖様に手を合わせ、今あることに感謝いたしましょう。ご都合が悪い方は、いずれの法要も不参加にてお申し込みできますので、お問い合わせください。



『深草閑居夜雨聲』の掛軸

この掛軸は、大本山總持寺貫首の石附周行禪師の筆になるものです。これは道元禪師が詠まれた漢詩の一節を書き起こしたものです。その漢詩は、生死憐れむ可し 雲の変更 迷途 覚路 夢中を行く 唯一事を留めて醒めて猶記す 深草の閑居夜雨の聲

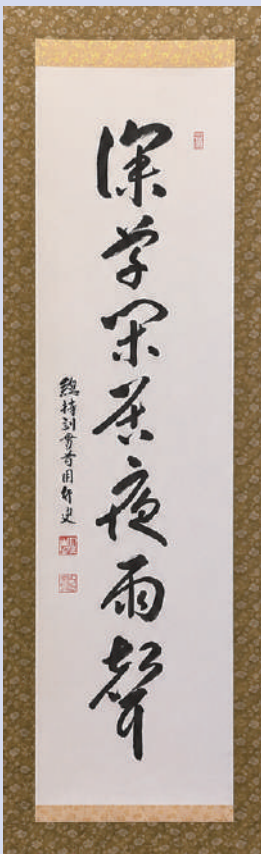
その意味は、「生あるものはいつかは死を迎える。まるで行く雲のようだ。生死についていろいろと考えてきたが、それはすべて夢の中を歩いていたようなものであった。生死とは何か、今その真髄を得た。ときあたかもこの深草の閑居の夜、外は雨音しきりである」。



石附周行貫首

安貞元(一一二七)年、求法のために渡っていた宋から帰国された道元禪師は、京都・深草の欣浄寺に閑居されました。今も道元禪師「深草閑居」の旧跡と称されており、道元禪師自作の石像や右の詩碑が残されています。

道元禪師は、「閑居」に「夜雨の聲」という言葉を重ね、閑静だが、ただ無音ではなく、雨音の中にさらに深い「閑」を見出されています。「動」の中に「閑」を見出し、「閑」の中に「動」を見出す。まさに我々の生死の一大事そのもののことを述べられています。生も死も、そして迷も覚も夢中を歩くようなもの、あるがままを受け入れて生きることが肝心だと示されているのです。



この掛軸は、休憩所でご覧いただけます

「はんにや心響」第十回

『正見』

幼少のころ、朝のお勤めが終わると

堂内に鎮座する各仏さまにご飯をお

供えするのが私の役目の一つでした。

当時の本堂は薄暗く隙間風が入り

込み、わかりやすく言えば「薄気味

悪い」本堂でした。外の笹竹がゆら

ゆら揺れるたびに私は（おぼけがい

るかも〜）とおっかなびっくりご飯

をお供えしてまわったものです。

私は母に「怖いからもう仏さまにご

飯あげに行きたくない」と伝えると、

「何か悪いことでもしているの？悪い

ことしてなきや怖がる必要なんかな

いのよ、仏さまだって見ているんだ

から大丈夫。心に手を当てる、やま

しいことが無ければ堂々としていな

さい」と言われ（ハッ）としたことを、

今でもご飯をお供えする度に思い出

します。

人間は「不明瞭なもの」や「不確か

なもの」を恐れ、不安になります。コ

ロナしかり、近年の米騒動・熊騒動し

かり……不安を煽り、恐怖を助長する



山形県酒田市 正常院住職
成澤祐吾 老師

報道も多くあり、その不確かな情報に

一喜一憂させられることもあります。

正しい情報とは、正しい経験に裏

打ちされた「事実」から発信される

ものですが、今の時代はその見極め

が非常に難しくなりました。そんな

時代だからこそ、より「正しく判断

する（見る）こと」が重要になります。

仏さまの教えにある『正見』とは、

偏りなく正しく見る（判断する）智

慧を指します。正しく判断するため

には、私たちもその「目」を養うた

めの勉強をしなければなりません。

正しく学び研鑽を重ねれば、不確か

なものに心を揺さぶられることなど

ありません。

安直な恐れやその伝搬が笹竹をも

恐ろしい「おぼけ」にしてゆきます。

自らの心が作り出した「おぼけ」を

恐れることなく、『正見』する目を養っ

てゆきたいものです。

合掌

臨南寺行持予定（八〜九月）

お盆行持

● **お墓経** *八月十日 午前九時半〜午前十一時半
*八月十二日 午後五時〜午後七時半

お盆のお墓経を行います。どちらかご都合のよい日にお越しください。

塔婆の準備がございますので、必ず事前にご連絡ください。（回向料一万円）

● 弁財天万灯会（本堂）

*八月十二日 午後六時〜午後七時半

あらゆる願いを叶えてくださる弁財天様に、願いを託して献灯をお供えし、福を授かりましょう。お盆の迎え火としてもご献灯いただけます。どなたでもご参加いただけます。（献灯料千円）

● 盂蘭盆会施食会（本堂）

*八月十六日 午前九時〜十二時半

お盆供養の法要を行います。各家のご先祖様とご縁の深い精霊のご供養をいたしましょう。どなたでもご参加いただけます。（回向料一万円）

● お彼岸行持

● **お墓経** *日程は未定

お彼岸のお墓経を行います。日程は現在未定ですが、追ってお知らせします。塔婆の準備がございますので、必ず事前にご連絡ください。（回向料一万円）

● 彼岸会施食会（本堂）

*九月二十六日 午後一時〜午後二時半

お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝し、わが身を省みる大事な期間です。ご先祖様をしのび今あることに感謝いたしましょう。どなたでもご参加いただけます。（回向料一万円）



坐禅会

毎月第一土曜日 午前八時〜 本堂にて

*一月と八月はありません。中止する場合がありますので、前日にお電話でお問合せください。

どうぞどうぞよろしくお願ひします

松崎雄希

四月よりお勤めさせて頂いて
います、新潟県十日町市出身の
松崎雄希と申します。

大学卒業後は横浜市にある大本
山總持寺で二年半修行させていた
だきました。その後は地元に戻り約八年間、師匠と二人
でお寺の業務を務めていました。



總持寺での修行中には多くの仲間に出会い、諸老師か
らご指導いただき、そして全国から訪れるお檀家様や参
詣者の皆様と触れ合うことで、人と関わる難しさ大切さ
を学びました。

お寺に関することだけでも、皆さまそれぞれに考えや思
いをお持ちです。そういった話を聞きながら相手の意見や
考えを受け入れること、そして、自分の考えの幅を広げ対
応していくことが大事だと実感しました。地元に戻って
からは葬儀や法事などでお檀家様との関係を作りなが
ら、地元の風習やしきたりを学ぶ日々でした。生まれ
育った場所と言っても知らないことばかりで、子どもの
頃に何も考えずに受け入れていたことを思い知らされ、
勉強の毎日を過ごしていました。

そんな中、ご縁をいただき臨南寺に参りました。令和三
年からお盆の棚経のお手伝いをしていたので、見覚えのあ
る方もいらっしゃるかもしれません。お寺にお越しになっ
た時やお参りに伺った時には、気軽に話していただだけ
れば嬉しいです。大阪でもたくさんの方と出会い、いろ
んな風習を学びながら多くの経験を積み重ねていきたい
と思っています。これからよろしくお願ひいたします。

お墓参りの際には休憩所をご活用ください



涼しい休憩所でお休みください

年々増してくる
夏の暑さ。特にご高齢の方には熱
中症が心配です。夏場のお墓参り
には、涼しい休憩所でひと休みさ
れることをお勧めします。また、
お一人でお墓参りせず、ご家族同
伴でのお参りを心掛けてください。



春のマトリ合同法要



雲ひとつない青空が広がり
五月晴れに恵まれた五月十日
(日)、午後二時からがっしょう園マ
トリの合同法要が営まれました。

マトリにご納骨された皆様の法要が
執り行われ、読経が続く中でご焼香を
していただきました。



「マトリ」とはサンスクリット
語で「お母さん」のこと。母の
ふところに抱かれて永遠の安ら
ぎが得られますようにと祈る思
いが込められています。

「ほ〜っと」78号 令和8年7月

りょうがりん
編集・発行：椋伽林

「ほ〜っと」編集部

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール: rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://rinnanji.com>

インスタグラム: RINNANJI1645



Eメール



ホームペ
ージ



インスタ
グラム

編集後記

皆さん、お気づきでしょ
うか。「ほ〜っと」の紙面が
カラーになっていることを。
実は、76号から写真がカラー
になりました。少しは明る
く読みやすくなったのでは
ないでしょうか。これから
も「ほ〜っと」が、楽しく
生きる皆さんの力になれば
と願っております。(M)